

屋久島の 魅力に迫る！ その15

— 屋久杉の巨樹たち —

世界各地に巨樹が存在します。世界で一番背の高い木は、アメリカ・カリフォルニア州のレッドウッドで樹高112m（幹回13.4m）。日本一高い木といえば、秋田県能代市二ツ井町の、天然秋田杉（キマチ杉）で58mの高さ（幹回5.1m）とされています。また一説では、愛知県鳳来寺山の「傘杉」も高さ60m（幹回7.7m）で日本一とも言われています。その他、国内で背の高い巨樹を調べると、圧倒的に杉が上位を占め、まれにモミ、イチョウ、ヒノキなどが混ざってきます。

つぎに屋久杉の巨樹、とくに有名な木を並べてみると以下の通りです。

縄文杉（樹高25.3m ・幹回16.4m ・樹齢2000～3000年）

大王杉（樹高24.7m ・幹回11.1m ・樹齢3000年）

川上杉（樹高27.0m ・幹回 8.9m ・樹齢2000年）

紀元杉（樹高19.5m ・幹回 8.1m ・樹齢3000年）

大和杉（樹高34.9m ・幹回10.2m ・樹齢3000～4000年）

万代杉（樹高13.2m ・幹回 8.6m ・樹齢3000年）

弥生杉（樹高26.1m ・幹回 8.1m ・樹齢3000年）

共通する点はいずれも推定樹齢2000～4000年という長寿の木であること。

そして、全国の杉巨樹（樹高50～60m）と比較して、樹高20～30mとかなり低いのが特徴となっています。これには屋久島が台風の通り道であり、高地では積雪もあることなどから、樹高30mを超える木は、度重なる強風や、雪の重みに耐えられなかったのだと推測されます。



大王杉



紀元杉



大和杉



弥生杉

